

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大 学 名	岡山大学
整理番号	B09
構 想 名	PRIMEプログラム：世界で活躍できる「実践人」を育成する！

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) 本構想は、学生が3基幹力/3 powers (教養力、語学力、専門力)を修得し、3側面/3 faces (異分野、異社会、異文化)の経験を持てるように、3×3 (スリー・バイ・スリー)教育を全学体制で推進し、世界トップステージで活躍できる実践人を育成するものである。学長のリーダーシップのもと、ガバナンス改革を積極的に推進していると評価できる。テニュアトラック制や、独自のウーマン・テニュア・トラック制も、積極的に導入していると評価したい。さらに、教員活動評価の評価項目に国際通用性を新規追加したことや、事務系勤務評価を重要な指標として適任者の選考を行い、職員の資質向上に繋げている点も評価できる。 また、学長のリーダーシップ強化のために、大学改革担当学長補佐を配置し、大学改革推進課を新設するなど、改革推進体制を整備している。さらに、データベース機能を拡充することで、全学の情報を一元的に管理する体制を整えようとしていることも評価できる。 加えて、教育の国際通用性と世界水準の教学マネジメントを担う Center for Teaching Excellence (CTE)の下に学生チームを位置づけ、協働体制を構築するなど、大学運営に学生を積極的に参加させていることは、優れた取組であると考えられる。 教育面では、グローバル・ディスカバリー・プログラムをコアに、学生のニーズに合わせた指導を行う構想は評価できる。また、ナンバリング、GPA 導入及びシラバス英語化を予定通り達成していることも評価できる。しかしながら、学部については着実な取組を進めているが、大学院レベルでの改革を更に進めることが望まれる。 なお、外国人教員や外国で取得した学位を有する教員の人数、日本人学生の留学経験の割合について、実績値が目標値を下回っている。また、TOEFL 等外部試験の学部入試への活用は、目標値の約半分である。外国人留学生への奨学金支給の入学許可時の伝達数についても、実績値が低い。目標達成のためには抜本的な対策が必要である。 財政支援期間終了後を見据えた自走化に向けた取組の一環として、大学独自の機能強化予算や、産官学協働体制に取り組んでいる点が評価できる。また、大学機能強化戦略経費を予算に組み込むなど、財源の確保を追求している点も評価したい。しかし、予算以外の自己収入に更なる工夫と努力が必要かと思われる。その意味で、自己収入財源の確保として岡山大学学都基金の設立、プログラムフィーでの財源確保、ネーミングライツ事業の立ち上げ及びクラウドファンディングの活用計画があることは評価できる。	